

大東文化大学基準別基本方針 大東文化大学の理念・目的

2014年2月17日

自己点検・評価基本事項検討委員会

1. 建学の精神と理念

大東文化大学は、今年（2013年）創立90周年を迎えた。創立百周年に向けて大学の歴史を検証しつつ、来るべき2023年の大学の将来像を明らかにしていく。

本学は、当時の帝国議会において決議された建議によって1923年に設立された。建学にあたっては、「漢学（特に儒教）を中心として東洋の文化を教授・研究することを通じて、その振興を図ると共に、儒教に基づく道義の確立を期し、更に東洋の文化を基盤として西洋の文化を摂取吸収し、東西文化を融合して新しい文化の創造を目ざす」（1985年『大東文化大学の建学の精神』 学園長期教育研究計画策定委員会報告書）ことが掲げられた。

建学の精神は、社会の進展と時代の変化の中で検証されてきた。『中期経営計画「CROSSING」

（2009-2023）』（2008年理事会）では、「東西文化の融合」という建学の精神は、「多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」と読み替えられた。これは、1990年代に始まり、21世紀に入って加速するグローバリゼーションの現実と課題に対応する新しい理念として打ち出されたものである。

しかし、「東洋の文化」の研究から出発した本学の歴史においては、アジアに軸足を置いた研究と教育に最も蓄積がある。さらに現在は、欧米を含む世界に広げ、国際的な視野に立った研究と教育を特色としている。そのことから、「アジアから世界へ—多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」を大学の理念として掲げる。

2. 大東文化大学の目的と社会的使命 — どのような学生を育てるか

グローバリゼーションの急速な進展によって世界は相互に関連するひとつのシステムとなり、その影響はあらゆる国、地域の人々の生活に及んでいる。他方、文明・文化の衝突、環境、貧困と福祉問題などが人類的な課題として浮上している。大学は、「学術の中心」（学校教育法第83条）として、基礎的研究と教育を通じて、社会が要請する新しい課題の解決に貢献することが求められている。

本学は、アジアを中心として国際的な文化研究と異文化交流を行ってきた歴史があり、学術・教育の創造を通じて文化を世界に発信し、国際的に貢献していくことができる強みを持っている。

わが国の大学政策も「グローバル人材の育成」を掲げ、大学自体が「国際標準」化することを求めている。他方、COC（Center Of Community）構想に見るように、大学が地域再生の中核としての役割を果たすことを求めている。グローバリゼーションが進むなかで、それと

関わりながら、地域が経済的に自立し、独自の地域文化を発展させることが必要になっている。またそこで働く人間は、「地域・日本・世界を貫く教養」が必要になる。その点での大学の役割が求められているのである。

本学は、学則第1条において、「建学の精神に基づき、学問の理論と応用を教授・研究して真理と正義を愛する自主的精神に充ちた良識ある人材を育成し、文化の発展と人類の福祉に貢献することを目的とする」と謳っている。これは、戦後教育法と新制大学の理念を踏まえた教育の目的である。

本学が教育の目的とする能力と人格（大東学士力）は、以下のようなものである。

- (1) 地球的規模の視野と感覚を持ち、異文化への理解力・共感力、コミュニケーション能力を持ち、諸問題の解決に貢献できる。
- (2) 豊かな人間的教養と高度な専門的知識・技術を持ち、現代社会の諸問題にチャレンジできる。
- (3) 職業や地域社会の中堅として、生涯にわたって学び続け、その発展に貢献する意欲と能力を持っている。
- (4) 自分の意見を持ち、それを適切に表現し、他者と協力・共同する能力を持っている。
- (5) 大東人として、また人間としての誇りと自信、社会の担い手としての強い使命感・モラルを持ち、行動できる。

3. 創立百周年に向けた6つのヴィジョン

1 主体的な学びにより、大東学士力を育てる「教育の大東」を実現する

- (1) すべての学生が大東学士力を身につける質の高い教育を展開する。
- (2) 参加型・問題解決型の主体的な学びを実現する。
- (3) 垣根をこえた学びにより複数の専門に挑戦できるカリキュラムを創造する。
- (4) カリキュラムを全学的に共通化・柔軟化・スリム化する。

2 自主・参加・共同による学生生活を支援する

- (1) 主人公として大学生活に参加することを支援する。
- (2) 学習支援、生活支援を充実させる。
- (3) 学生のさまざまなニーズ（障がい学生、心の病など）に適切に対応した施策を行う。
- (4) キャリア教育・就職支援の全学的な体制をつくる。
- (5) 留学生への支援を強化する。
- (6) スポーツ・文化活動をはじめ自主的活動を支援する。

3 「開かれた知の共同体」をつくり、大東文化らしい高度な研究を創造する

- (1) 個人の自由な研究活動を発展させると同時に、「知の共同体」としての機能を充実す

る。

- (2) 基礎研究を重視すると共に、地域や社会の要請ときり結ぶプロジェクトを展開する。
- (3) 研究所体制を再編成し、学際的でダイナミックな研究を発信する。
- (4) 大学院を再編成し、「大東文化」らしい教育と研究を充実させる。

4 国際的な学術・教育のネットワークの拠点となり、世界に向けて発信する

- (1) 大学の国際的なネットワークに参加し、国際水準の研究を推進する。
- (2) 留学の制度（受け入れと派遣）を充実し、交流の国・地域、留学生数を増加させる。
- (3) 国際的な学術交流を発展させる。

5 「学術の中心」として地域と連携・共同し、社会の発展に貢献する

- (1) 地域の生涯学習の拠点となり、学習・文化活動の発展に貢献する。
- (2) 地域の諸課題解決のための共同研究を発展させる。
- (3) 学生の地域参加型学習の機会を増やす。
- (4) ボランティア活動を支援し、拡大していく。

6 人権と自由を尊重し、公正な大学運営を行い、社会に信頼される組織となる

- (1) 教育・研究の場にふさわしく、学生、教職員の自由と人権が尊重されるキャンパスをつくる。
- (2) 社会に開かれた自治的なガバナンスを行う。
- (3) コンプライアンスを徹底し、社会に信頼される大学にする。
- (4) 安全と安心の危機管理体制をつくる。
- (5) 教育・研究のための財政基盤を確立する。
- (6) 内部質保障のための点検・評価体制を整備する。
- (7) 留学生への支援を強化する。
- (8) スポーツ・文化活動をはじめ自主的活動を支援する。

3 「開かれた知の共同体」をつくり、大東文化らしい高度な研究を創造する

- (1) 個人の自由な研究活動を発展させると同時に、「知の共同体」としての機能を充実する。
- (2) 基礎研究を重視すると共に、地域や社会の要請ときり結ぶプロジェクトを展開する。
- (3) 研究所体制を再編成し、学際的でダイナミックな研究を発信する。
- (4) 大学院を再編成し、「大東文化」らしい教育と研究を充実させる。

4 国際的な学術・教育のネットワークの拠点となり、世界に向けて発信する

- (1) 大学の国際的なネットワークに参加し、国際水準の研究を推進する。

- (2) 留学の制度（受け入れと派遣）を充実し、交流の国・地域、留学生数を増加させる。
- (3) 国際的な学術交流を発展させる。

5 「学術の中心」として地域と連携・共同し、社会の発展に貢献する

- (1) 地域の生涯学習の拠点となり、学習・文化活動の発展に貢献する。
- (2) 地域の諸課題解決のための共同研究を発展させる。
- (3) 学生の地域参加型学習の機会を増やす。
- (4) ボランティア活動を支援し、拡大していく。

6 人権と自由を尊重し、公正な大学運営を行い、社会に信頼される組織となる

- (1) 教育・研究の場にふさわしく、学生、教職員の自由と人権が尊重されるキャンパスをつくる。
- (2) 社会に開かれた自治的なガバナンスを行う。
- (3) コンプライアンスを徹底し、社会に信頼される大学にする。
- (4) 安全と安心の危機管理体制をつくる。
- (5) 教育・研究のための財政基盤を確立する。
- (6) 内部質保障のための点検・評価体制を整備する。